

9月25日発売の澤 正宏(福島大学名誉教授) 解題

『近現代日本語辞典選集「モダン語辞典・事典・用語編」』が、

図書新聞11月21日号に掲載されました!

『近現代日本語辞典選集』全四巻(クロスカルチャー出版)を読む

▼「文学・言語研究資料シリーズ3」、『近現代日本語辞典選集—モダン語辞典・事典・用語編』全4巻、澤正宏(福島大学名誉教授) 解題、9・30刊、B5判、総約二五〇〇頁・本体一二〇〇〇〇円・クロスカルチャー出版

2020年11月21日(土曜日)

図書新聞

大正期から昭和初期の言語、モダンな言葉の海へ

当時の世界認識や社会意識をみごとに反映した資料集

三輪智博



「エコーするへく」をキヤッチフレースに、日本近現代の貴重な史料の復刻を数多く手掛け、またクロスカルチャー出版の『モダン語辞典』を刊行するなど、旺盛な出版活動を展開するクロスカルチャー出版のラインナップに、いま、注目の資料集が加わった。「文学・言語研究資料シリーズ3」の『近現代日本語辞典選集—モダン語辞典・事典・用語編』(全四巻)である。同シリーズ第二巻の『西脇順三郎研究資料集』全六巻)に続いて澤正宏・福島大学名誉教授が解題を担当している。大正期から昭和前期に刊行された貴重な辞典類を厳選し復刻した、全四巻におよぶ壮大なスケールの「エコーするへく」の集積である。

これまで、クロスカルチャー出版の『文学・言語研究資料シリーズ』には、第一巻として『近代日本語教科書選集』(全一四巻、李長波・同志社大学教授編集・解説)が、そして第二巻には先述の『西脇順三郎研究資料集』が刊行されている。今回の『近現代日本語辞典選集』は、一九二〇

年代半ばから三〇年代半ば頃という、まさしく近代日本の転換期、そして激動の時代のなかで編纂され、広く江湖に迎えられた辞典類を厳選している。法律や哲学、文学・芸術、社会、日常生活全般にわたる諸ジャンルの言語、言葉を焦点に、時代の特徴を映し出す重要な用語辞典や事典を仔細に検討し、資料的価値のみならず、現代的な観点から見てもまことに興味深い辞典類を収録したものである。

内容を概観してみよう。第一巻には、以下の辞典類が収められている。『近代詩用語辞典』、『プロレタリア文藝辞典』、『文学新語小辞典』、『モダン語辞典』、『現代術語辞典』(『毎日年鑑』附録)。なかでも『モダン語辞典』は第四五版の収録であり、当時いかに版を重ね、重宝されたかがよくわかる。これらは主に現代文学が台頭する前の散文や詩の用語辞典であり、当時隆盛したプロレタリア文学や新興芸術文化・文芸の実態、労働運動と文芸活動などをうかがい知る、きわめて資料的価値の高い内容である。

第二巻には『モダン語流行語辞典』、『増訂 哲学辞典全集』、『最新 市場用語解説別輯 英米市場用語詳解』が収録されている。『モダン語流行辞典』は、モダン都市の消費文化が開花し、モボ・モガなどの風俗が流行した大正期以降の言葉を収集し定義つけた、一九三〇年代初頭に初版刊行の重要な辞典である。当時の新語や言葉の変化への着目、まなざしをよく映し出すもので、人々のモダン認識や意識のありようを知る上では必須の一冊である。また『増訂 哲学辞典全集』は、西洋哲学の導入によって幕を開けた

日本近代の哲学研究の半世紀の歩みと到達点を示す内容である。『最新 市場用語解説別輯 英米市場用語詳解』も実に興味深い一冊だ。資本主義が発展し、株式市場が経済活動の中心を占めるなかで、広く市場について知ることが切に求められるようになった時代の産物であろう。内容を見てもわかるとおり、国内市場だけでなく、英米の市場についての知識が切に求められた時代の要請に応えるものであった。世界恐慌以後、ファシズムが台頭する時代状況にあって、そうした要請がいかなるものであったかが、この辞典からもうかがい知れる。

第三巻には『外来語辞典』、第四巻には『英語から生れた現代語辞典』がそれぞれ収められている。『英語から生れた現代語辞典』は、増補版も含めて百版を数えたというから、当時の必要性、有用性の如何を雄弁に物語る。『外来語辞典』は、収録語数が一万以上、引用と出典例は実に約六万という、きわめて充実した内容である。近代日本の英語受容の水準の高さを示す格好の一冊といえるだろう。

以上の概要からわかるとおり、『近現代日本語辞典選集』全四巻は大正期から昭和前期にかけての日本人の言語や言葉への感度のありよう、そこに映し出された世界認識や社会意識をみごとに反映した資料集である。日本近代の言語活動全般を知る上で不可欠のものであり、研究者はもとより、時代考証や近代の文学・芸術、経済や社会の読解、当時の外国語・外来語受容の実態に関心をもち読者にも何よりの導きとなるであろう。

(現代史研究)